

安全作業手順書【バックホウ】



| 見振りも基準をした危険性の評価 | | | | |
|--------------------------|-------------|-------------------|----------------|---------------------|
| 可能性(A) | 重大性(B) | 軽微 (不休と休業3日以内) | 重大 (休業4日以上) | 極めて重大 (死亡・障害が残る) |
| ○ ほとんど起こらない (5年に1回程度) | ○○ (極めて小さい) | ○△ (かなり小さい) | △× (中程度) | × |
| △ たまに起こる (1年に1回程度) | △○ (かなり小さい) | △△ (中程度) | △× | × |
| × かなり起こる (6ヶ月に1回程度) | ×○ (中程度) | ×△ (かなり大きい) | ×× | × |

| 危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例 | | | |
|------------------------|--------|-----|----------------------|
| 危険性の見振り | 危険性の評価 | 危険度 | 判定 |
| ×× | 極めて重大 | 5 | 即座に対策が必要 |
| ×△、△× | かなり大きい | 4 | 根本的対策が必要 |
| ×○、△△、○× | 中程度 | 3 | 何らかの対策が必要 |
| △○、○△ | かなり小さい | 2 | 現時点では必要なし (様子を見る) |
| ○○ | 極めて小さい | 1 | 対策の必要なし |

| | | | |
|-------------|-----------------------------|-----|---|
| 作成日・ 改正日 | 2025/4/1 (前回改正：2024/4/1) | 現場名 | 東名高速道路(豊田IC~春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC~飛島北IC,有松IC~上社JCT) |
| 機器工具 ・車両 | バックホウ【クレーン付きバックホウ含む】 | 保護具 | ヘルメット、安全チョッキ、 ゴム手袋、軍手、安全靴 |

| 作業区分 | | 作業手順・作業内容 | | 急所 | 危険ポイント | | | リスクの見振り | | | 安全対策(危険度2以下へ) | | | リスクの再見振り | | | | |
|------|--------|---|--|--|------------|---|---|---|-----|-----|---------------|------------|---|----------|-----|-----|---|---|
| | | | | | (～なので～になる) | | | (A) | (B) | リスク | (私達はこうする) | | | (A) | (B) | リスク | | |
| 準備工 | 作業確認 | 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する | 作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して | 手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう | △ | × | 4 | 全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | △ | 2 | ○ | △ | 2 |
| | 作業前点検 | 使用前の建設機械点検を行う | ①建設機械ごとの点検表に則り ②検査証の備え付け、使用の制限、設計基準の負荷条件、過負荷の制限、運転資格を確認して ③クレーン付きのバックホウの場合は、クレーン定格荷重の確認を作業前に把握する | 点検不足により、作業中による故障する | ○ | × | 3 | 作業前に必ず点検を行う | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | | 使用するワイヤー及びベルトスリングの点検を行う | 以下の点に重点をおいて (ワイヤーロープ) ①1より間で、素数の数の10%以上の素線が切断していないか ②直径の減少が公称径の7%をこえていないか ③キンクしていないか ④著しい形崩れ又は腐食がないか (ベルトスリング) ①ストランドが切断していないか ②著しい損傷又は腐食がないか ③表面に毛羽立ちがないか ④ベルトに傷や剥離がないか ⑤縫製部、アイ部、外観に異常がないか ⑥タグ表示等がはっきりしているか | 性能不足のワイヤーを使用し作業中に 破断等により被災する | ○ | × | 3 | 作業前に必ず点検を行う | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| 本作業 | 出発 | 基地等、敷地内から車道へと進入する 目的地へ回送する | 周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して 車両回送手順書に従い | 確認不足により一般車両及び人と接触する | △ | × | 4 | 余裕を持って慎重に車道へ流出する | ○ | △ | 2 | 車両回送手順書に従う | | | | | | |
| | 準備工 | ハンドル切りを行い、車止めを設置する 気象状況を確認する クレーン車両の設置場所の地盤、路面状況を確認する 設置場所の上空、周囲に支障物が無い確認する 定格荷重を確認する | 作業員全員で 計測器等を用いて 周囲の状況に気をつけながら 周囲の状況に気をつけながら 周囲の状況に気をつけながら 車両の規格を確認して | 停止処置不十分により車両が逸走してしまう 強風に煽られ、クレーンが横転する 軟弱地盤に停車させ、車両が横転する 架空線に気づかず、接触してしまう 定格荷重以上を吊り上げ、車両が横転する | ○ | × | 3 | 左記急所の養生と共に、サイドブレーキの確認も行う | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | クレーン作業 | 吊荷に玉掛けする 吊荷をクレーンで移動させる 吊荷を下ろす | ワイヤーの様子も確認しながら 地切りし、吊荷が安定していることを確認してから 合図者の指示に従い | 吊位置が不均等となり、吊荷を落下させる 吊位置が不均等となり、吊荷を落下させる 荷を吊ったまま操作盤から離れ、 荷が揺れ車両や作業員と接触する | △ | △ | 3 | 原則、ワイヤーは2点吊とする | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | 掘削作業 | 掘削する | 作業範囲内に入り接触する | 旋回半径内に入らない | △ | × | 4 | 作業監視員を配置し、警笛等を用いて合図をしながら 作業をする。ただし、夜間にて近隣に住宅がある場合は 現場に応じて配慮する | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | | 積み込み | 車両の積載量を確認しながら | 過積載による違反をしてしまう | ○ | × | 3 | アオリより積まないように注意する | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | 後片付け | キャタピラ等付着した合材、土砂を除去する | 周囲の状況に気をつけながら | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| | 仕上げ | 養生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する | 車線側、他の作業員等十分周囲に注意して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように | 片付け作業や操作作業が重複し 作業員同士との接触を起こす 掃き掃除やプロウア使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する | △ | △ | 3 | 職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う | ○ | ○ | 1 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 |
| | 現場離脱 | | | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| 特記 | 1人作業 | 原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

25.車両回送手順書に則る